

リレー回想



私の稲ワラ考

六川 昌幸 (西塩沢)

昨年の冬、西塩沢の有志10数人で「ぶらりshindenまち歩き」と銘打った会が立ち上がりました。オープンガーデン、絵画、写真、吊るし雛、手芸品など展示する催しで、私はワラ馬細工を出展することにしました。昨年は、NHKの大河ドラマ「真田丸」が放映されていたので、私の作品は真田の騎馬軍団と決めました。騎馬を10数騎作ったところから騎馬や武将に動きをつけて、陣奥には真田3人の大将を据えて、その前面に六文銭赤旗騎馬軍団を30騎並べて仕上げました。その他、真田親子の重要な出来事であ

ある、犬伏薬師寺や、親子の密談の様子を飾りました。

この催しも皆さんの素晴らしい作品によりとても盛会でした。

そして、今年は昭和の初めてのころの田舎の暮らしを表現することにして、馬耕する人、代掻きや鋤で耕す人、下肥を担ぐ人、乳母車、牛運送、足踏み鋤などジオラマ風にコルクボード2枚に並べ「温故知新」の題名で出展したところ、まずまずの評価をいただいたので自己満足しました。この作品を制作していた2月は陽だまりの縁側で、妻も縄ないをして玉にまるめて2個ほど作るなど手伝ってくれました。昭和初期の冬は毎日がワラ仕事で、機械で蚕縄をない、俵を作り、ムシロ、ネコ編、草鞋や蚕のコスなど、その当時の身の回りの用具はワラで作ったものがほとんどでした。毎年脱穀が終わるとワラは、雨に濡れないうちに納屋や

牛小屋の天井までも積み上げて、飼料をはじめ堆肥などとして大切にしました。

それが今は、ビニール、プラスチック、ポリエチレンに変わり稲ワラの出番がなくなりました。化学製品は清潔で便利ですが稲ワラの様な温もりを感じない気がします。古い人間の独りよがりでしょうか…。

今年も、たんぼの稲が黄ばんできましたのでいろいろな作品をイメージしながらワラ細工用のワラを刈り取るうかと考えている今日この頃です。



クラブ訪問



五無齋保科百助研究会

村田 長年 (西塩沢)

研究会は2年前の4月に発足しました。会の目的は①五無齋についての勉強会②五無齋に関する資料の保護・保存、整理と活用③五無齋に関する講演・講座の企画運営④近づいている五無齋生誕150周年記念企画など

この二年間様々な取り組みを行ってきましたが、今年の内容を簡単にご報告すると次のようになります。

- ・石の観察会 (ヒスイの話、五無齋に関する石の話)
- ・「信濃公論」に学ぶ (五無齋発行の週刊新聞、町作成の復刻版があります。)
- ・講演会 (井出孫六氏、200名を超える方にご参加いただきました。五無齋に関わるパネルを作成、会場に展示)
- ・小学校に自然観察のすすめ (昆虫・石)
- ・五無齋狂歌カルタ作成にむけて (狂歌に合わせて絵を作成。協力佐久教育会)

秋には五無齋ゆかりの地を訪ねて「長野市方面」を計画 (10月20日(金)参加費無料)

周りの皆さまには暖かいご支援をいただき感謝申し上げます。「立科の五無齋」から「日本の五無齋」目指しこれからも会を運営してまいります。思っています。



編集後記

今年は、梅雨の時期に雨が少ない「空梅雨」でしたが、梅雨が明けると一転、雨の日が続きじめじめとした天気になりました。

しかし、今年の分館対抗ソフトボール大会は、晴天にも恵まれ、4年ぶりの開催となりました。

当然の事ながら等しく年を重ねる中で、選手の動きからは、体の衰えよりも円熟味を増したプレーが随所にあらわれていました。

成人式では、今年、89名が大人の仲間入りをしました。

久しぶりに会う友人との歓談や記念撮影などいつもの光景ですが、新成人を祝うために小学校・中学校時代の恩師が6名も足を運んでくださったことに驚きました。

お盆の予定を取りやめて参加してくださいました先生、当時の学級通信を編集して成人式用に持って来られた先生もおられ、教師と生徒との絆の深さを感じました。

いつまでも続く関係を自分自身で築いていける人になってくれるといいですね。

J・I